

日本・タジキスタン友好音楽行事の実施

2026 年 9 月 28 日、国際交流基金（JF）海外派遣助成プログラムで来訪した 4 人の音楽家（尺八：田嶋直士氏、リコーダー：鈴木俊哉氏、フルート：木埜下大祐氏、チェロ：新倉瞳氏）の演奏による「Japan-Tajikistan Friendship Concert」が、タジク国立音楽院大ホールで国立音楽院の協力の下、開催されました。本公演は、鈴木俊哉氏とカナダ在住タジク人作曲家ファランギス・ヌルッラ-シャヒディ氏との音楽交流を機にファランギス氏の母であるムニラ・シャヒディ女史が代表を務める「Ziyodullo Shahidi International Foundation」が招待団体となる形で提案され、実現しました。

開会式の挨拶で、古田恵子大使は、本年 6 月に急逝したムニラ・シャヒディ女史を偲ぶとともに、日本人とタジク人作曲家の曲目が演奏されるという点で、両国の友好公演であると強調しました。

タジキスタン側からは、バホドゥル・ダヴラトゾダ国立音楽院楽長が挨拶を行いました。



国立音楽院の大ホールは、約 200 人の来場客で満席となりました。





尺八の古典曲の他、リコーダー、フルート、Trio（3人）によって、日本、タジク、イラン作曲家の現代曲が演奏されました。





チェロ奏者による、ジヨドゥロ・シャヒディ氏、ファランギス・ヌルッラ-シャヒディ氏作曲の演奏と歌も披露され、聴衆を楽しませてくれました。



2026 年 9 月 29 日には国立シンフォニー・オーケストラ、30 日には国立音楽院にて、日本人演奏家によるマスタークラスが行われました。学生や団員にとって日本の演奏家によるプロフェッショナルな指導を受ける貴重な機会となるとともに、両国音楽関係者の交流の場となりました。





本行事をきっかけとして、両国の音楽関係者の間の交流が進むことが期待されます。